

神宮外苑

「いちよう並木」は 瀕死の危機に!

神宮外苑の再開発は、超高層ビル3棟の建設など利益を優先する計画で、既存樹木約1,000本が伐採・移植され歴史ある神宮外苑の景観と自然環境が破壊されることに反対するネット署名は10万筆を大きく超え、「いちよう並木は瀕死の危機にある」と専門家も警鐘を鳴らしてきました。

都市計画決定がされた後も、東京都環境影響評価審議会(アセス審)で激論となり、調査や情報開示が不十分なため"答申後も審議会が事業者の取り組みを継続的にチェックする"ことを盛り込んだ異例の答申が8月18日に出されました。調査の結果は10月になっても出ていません。

樹木伐採の許可権限を持つ区長

神宮外苑は「風致地区」に指定されており、樹木の伐採・移植は区長の許可がなければ出来ません。樹木を保全できるかどうかは、区長の判断が鍵を握ることになります。

日本イコモス国内委員会が 新宿区長・議長に提言書

日本イコモス国内委員会(世界遺産の審査機関)は、現在の再開発案では神宮外苑の緑と景観が守れないとして4月に代案を提言していました。10月3日には内閣総理大臣や新宿区長・議長に対する提言書を出し、樹木伐採の許可権限を持つ区長には「東京都風致地区条例に基づく伐採等の許可権限を適切に行わせることにより、風致地区条例を遵守し、樹木、樹林地、並木道の保全を、確実にを行うこと」を提言し、再開発計画の見直しを求めました。

区民の陳情は継続審査に

区議会には「神宮外苑の樹木伐採を回避し環境を保全するための陳情」が出され、環境建設委員会で議論されました。

公明党は「4列のいちよう並木は保全する」などと言い、自民党は「事業者は、樹木の伐採を4割減らすと言っている」などと主張しました。これに対し日本共産党は、「イコモスの提言書では、野球場がいちよう並木に接近しすぎて、これではいちよう並木が守れないと指摘。樹木の伐採を4割減らしたというも根拠が示されておらず、いい加減な数字だと指摘している」と主張し、陳情に賛成する立場を明確にしました。他の会派は態度を明らかにしませんが、陳情は「継続審査」となり、今後も引き続き議論することになりました。



現在



計画

コミュニティバスなどの導入を調査検討する 「地域交通調査検討会設置条例」を提案!



新宿区には交通不便地域は無いと言われていたのですが、区内には坂も多く、高齢者や障害のある方、妊婦さんやお子さん連れの方からは移動手段としてのコミュニティバスを走らせて欲しいという声から以前から多数寄せられています。今年、日本共産党区議団が行った区政アンケートでは「コミュニティバスを走らせてほしいか」の間に「はい」が44%であり、引き続き多くの区民が求めていることは明らかです。

条例案の地域交通調査検討会は、地域の状況やニーズを把握し、携帯位置情報のビッグデータやAI技術なども活用しながらコミュニティバスやオンデマンド交通など様々な地域交通の在り方を調査検討し、その結果を地域公共交通会議に上げていくというものです。

23区のコミュニティバスの実施状況は、具体的検討に入っている区も含めれば21区にまでひろがっています。

質疑では、複数の委員から新たな公共交通の検討は必要との趣旨の意見が出されましたが、残念ながら賛成少数で否決されました。

地域交通調査検討会設置条例案の採決結果

(◎提案者 ○賛成 ×反対)

共産	自民	公明	立民	新宿	社民	スタ
◎	×	×	○	×	○	×

自民=自民党
公明=公明党

立民=立憲民主党
新宿=新宿未来の会

社民=社民新宿
スタ=スタートアップ新宿